

➤ 利用シナリオ例



【Type A 共感・信頼を得る】

Why目的 私たちは防災協働社会の形成が人々にとって必要であると信じて疑わない。(命を守るため)

- 01 みんなで備える防災の力
- 02 全部北陸でおきた災害
- 10 生きるための備えとは？

How手段 地域の人々が、災害と災害リスクを正しく理解し、準備行動できるようになること、を重視している。

- 03 富山に地震ちゃおこんがけ？
- 07 いつ逃げる？レベルで判断を
- 08 いつ逃げる？どう逃げる？
- 11 うちで土砂災害は起きる？
- 12 津波は最短2分でくる
- 13 大雪のとき命を守るには？

What課題 だから防災講座・訓練を提案・支援する。

- 04 地震だ！！どうする？
- 05 家具ちゃ固定しとるけ？
- 06 通電火災
- 09 避難リュックに何入れる？
- ※訓練の要素があれば、なおよい。

【Type B 行動を促す】

Why目的 人々には防災・減災力の向上がもっとも必要であると考えています。

- 01 みんなで備える防災の力
- 02 全部北陸でおきた災害

What課題 災害リスクと備えを正しく理解することが必要。災害リスクを知る

- 03 富山に地震ちゃおこんがけ？
- 11 うちで土砂災害は起きる？
- 06 通電火災

事前準備する

- 05 家具ちゃ固定しとるけ？
- 09 避難リュックに何入れる？
- 10 生きるための備えとは？
- 13 大雪のとき命を守るには？

How手段 そして、タイミングよく避難行動してもらい命を守ってほしい。

地震・津波

- 04 地震だ！！どうする？
- 12 津波は最短2分でくる

風水害・洪水

- 07 いつ逃げる？レベルで判断を
- 08 いつ逃げる？どう逃げる？

【Type C 講座対応する】(AI)

1. 全体コンセプト

「北陸で実際に起きた災害を知り、富山で自分ごととして考え、いつ・どう避難し、日ごろから具体的な備えを地域みんなで実行する講座」

2. Whyパートで伝えること

災害を自分ごとにする

- 01 みんなで備える防災の力
- 02 全部北陸でおきた災害
- 10 生きるための備えとは？

ここでは

「北陸でも、富山でも大きな災害は起こり得る。命と生活を守るには、地域ぐるみの備えが必要」というメッセージを、写真や過去の事例を交えて短く伝える構成にすると効果的です。

3. Howパートで考えてもらうこと

・どんな危険が、どれくらいの速さで来るか

- 03 富山に地震ちゃおこんがけ？
- 04 地震だ！！どうする？
- 11 うちで土砂災害は起きる？
- 12 津波は最短2分でくる
- 13 大雪のとき命を守るには？

「自分の家・地区で起こりやすい災害」と「時間軸」を意識してもらう時間にします。

・いつ逃げるか、どう判断するか

- 07 いつ逃げる？レベルで判断を
- 08 いつ逃げる？どう逃げる？

ハザードマップや警戒レベルの表を見ながら「どのレベルになったら誰とどこへ避難するか」を、その場で簡単に書き出してもらうと、実際の行動につながります。

4. Whatパートで実践すること

家の中と避難の準備

- 05 家具ちゃ固定しとるけ？
- 06 通電火災
- 09 避難リュックに何入れる？

講座では「今日からできることを三つ」などに絞って具体化すると動きやすくなります。

・例

家具固定をする場所を一か所決めてもらう

ブレーカーを落とす練習をする

避難リュックに足りない物をその場でメモしてもらう

5. 講座用の流れイメージ

パート	内容	目的
導入	01・02・10	なぜ備えるか腹落ちさせる
危険を知る	03・04・11・12・13	自分ごとのリスク把握
判断軸づくり	07・08	いつ・どう逃げるか決める
具体行動	05・06・09	今日からの行動を決める